

(事後評価)

## 生体分子近傍の水和構造のナノスケール探索

(研究期間：平成13年)

任期付研究員：スザンヌ・ジャービス(独立行政法人産業技術総合研究所)

総評(一定の成果が得られた研究であった)

本研究は、生体分子に接した水の構造を局所的(分子スケール)に精密に評価するナノプローブ(超高感度AFM)センサー及びその計測システムを開発し、対象分子を計測する技術の確立を目指すものである。

当初3年間にわたる研究計画であったが、任期付研究員が諸事情により初年度で帰国し、本制度を十分に活用できない事態に至ったため評価に窮するものであるが、短期間のうちに生体分子近傍の水和構造のナノスケール探索のための新規AFMフォースセンサーの開発を行うなど、一定の成果を得たことは評価できる。

今後は、本研究成果を実際に応用することにより、多くの生体反応の新しい側面が解明されることが期待される。

他方、研究所の任期付研究員に対する支援については、研究スペース、機器の利用などに関して特段の配慮がなされているが、外国籍の任期付研究員が自由闊達に研究できる環境整備に向けて専任の非常勤職員を雇用したものの、研究の立ち上がりに時間を要した点なども見受けられる。

以上により、本研究は、総合的に一定の成果が得られた研究であったと評価できる。

<総合評価：b>

### 評価結果

総合	1.目標達成度	2.目標設定	3.研究成果				4.任期制	
			1.科学価値	2.科学的波及効果	2.社会的波及効果	3.情報発信	1.活用効果	2.機関支援
b	b	b	b	a	a	b	b	b